



## 今年、ベグライテンの15周年です！

ベグライテン代表世話人 関根 和彦

明けまして、おめでとうございます。みなさまの健康とご多幸を願っております。

今年も、昨年同様、共に学び、共に行動して、実りある年にして行きたいと思っております。

昨年は、介護保険改悪、機密保護法の施行、派遣制度の抜本改悪、戦争法制の強行採決、TPPの大筋合意など私たちの生活の根底を脅かす事態が相次ぎましたが、これらに対する国民の反対運動も空前の盛り上がりを見せました。

特に安全保障関連法に反対して、三つのナショナルセンターが作った統一センター（総がかり行動実行委員会）も画期的なことでしたが、青年学生が作ったシールズ、高校生のティーンズ・ソウル、ママの会、学者や法曹関係者、文化人の運動など、いわゆる市民の運動は空前の盛り上がりを見せました。

何よりも60年、70年の安保と違うところは、敗北感ではなく、出発点だという意識が支配的な点だと思います。強行採決後も、個々の団体の運動は継続、発展しており、年末の12月20日には、総がかり行動実行委員会の高田健さん、安全保障関連法に反対する学者の会の佐藤学さん、シールズの諏訪原健さん、安保関連法に反対するママの会の西郷南海子さん、立憲デモクラシーの会の中野晃一さん、山口次郎さんなどが、「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」（略称:市民連合）(<https://www.facebook.com/shiminrengo/>)を立ち上げました。

戦争法廃止2000万署名を共通の基礎に置き、①安全保障関連法の廃止、②立憲主義の回復（集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を含む）、③さらに脱原発や辺野古新基地建設反対などを含む個人の尊厳を擁護する政治の実現を目指し、今年の参議院選挙以降に向けて野党に共闘を呼びかけるとともに、必要に応じて市民連合として候補者を擁立し、野党に推薦・支援を求めることもあるとしています。

これは、既成の野党に協力・共同を求めるだけでなく、市民が自ら政治の主人公として、政治に乗り出そうとしている点で画期的です。

12月14日にシールズの奥田愛基（あき）さんや学者の会の中野晃一さん、弁護士の水上貴央（たかひさ）さんらが立ち上げたリデモス（一般社団法人 Re:DEMOS／安保や社会保障など分野ごとにプロジェクトを置き、政策を提言するシンクタンク）(<http://redemos.com/>)と共に、戦後の民主主義に一時代を画する動きであるということができると思います。

ベグライテンは、2001年7月に上智大学コミュニティ・カレッジの講座「死への準備教育～ホスピスボランティアとは」（コーディネーターは、A・デーケン先生(当時)）の受講生が立ち上げた勉強会ですが、学びの対象を終末医療から、介護、青少年の心の苦しき、犯罪被害、自殺、貧困と広げて来る中で、これらに苦しむ人たちを支援・援助するためには、文化・社会・制度・行政・政治・国際問題も学ばなければならない、ケアの思想だけでなく公共哲学をも学ばなければならないと気付き、2010年以後学びを深めてまいりました。

また、2011年の東日本大震災の後、学んだものをどのように私たちの行動や生活に生じて行くかという点でも学び始めましたが、2012年以後には脱原発で、2014年7月以後には安全保障問題で、学びを深めながら、全国的な運動にも参加することができるようになり、昨年7月には継続的に運動に参加することができるようにするため、会の中に安保グループをつくりベグライテンの活動を一段と活発なものにすることができるようになりました。

昨年来の国民的な運動の盛り上がりの中で、ベグライテンも活動の輪を広げ、充実させてまいりましたが、今年もケアと公共を学び、一層活発に毎日の生活と行動の中に生かして行きたいと思えます。

今年の7月の参議院選挙は、文字通り海外に出て戦争をしたい勢力と、これまでの平和主義路線を貫き、日本の平和と安全を確保しようとする多くの国民との対決の場です。安倍自公政権は、一億総活躍社会とか、介護離職をなくすとか口当たりの良いことを言って、支持をつなぎ止めようとしていますが、大企業の景気が良くなれば、中小零細企業の景気も良くなると称して、大企業の利益優先の政治を行い、保育所や特養など私たちの生活に必要な社会福祉施設の増設要求を放置し、予算を削減してきたのは、自公政権ではありませんか？派遣法を抜本改悪して非正規低賃金労働者を増やし、格差を拡大し、消費税を引き上げて国民の生活を一層苦しいものにしてしているのは、自公政権ではないのでしょうか？今こそ、ベグライテンの出番です。国民の要求を積極的に取り上げて、自公など戦争勢力を追い落としましょう。

具体的には、

1、みんなで、2000万人署名に取り組みませんか？

2、署名をいただきながら、安保法制に反対している党、候補者への支援を呼び掛けましょう。安保法制を推進し、憲法改正を伺う党への反対を呼び掛けましょう。

また、関係ない、関心がないという人たちには、みなさんが取り組んでおられるケアの分野の問題点などを持ち出して、積極的に話しかけてみませんか？

3、ご自身が行ってみたい、聴いてみたい、集会、講演会、学習会、憲法カフェ、行動などに誘ってみましょう。また、2000万人署名集めへの協力を訴えてみませんか？

安保法制推進勢力を激減させる中で、ベグライテンの15周年を祝いたしたいと思います。



## ◇ベグライテン1月例会のご案内◇

フィンランドとアメリカから始まったひとのこころを助ける 古くて 新しい援助スタイル

### 『オープンダイアログ』と『ハウジングファースト』

明けましておめでとうございます。「ミシュカの森」入江杏として、「この一年のあなたの一字」を昨年末聞かれた私が選んだのは「話」です。「和」にも「輪」にも通じる「話」。これまで皆様の、地域の、また大学や行政のお力添えで「悲しみを生きる力に」をテーマに語らせて頂くことで、「人生の再構築=生き直し」の体験を象りながら語ってきました。でもこれからは一層、そうした「象」「型」を「離す」「放す」こともしつつ・・・「話」「対話」していける場創りへと開かれていきたいと思っています。今年の抱負は、多世代・多地域の「多」もさる事ながら何より「他」へと開かれつつ、話す場創りを・・・と願っています。

年明けの講演会のテーマは「オープンダイアログ」まさに「開かれた対話」のお話で、森川すいめい先生ほか、実践者の方、3名からお話を伺います。場所は文京シビックホール会議室になりますから、お間違えのないようお越し下さいませ。

【講師】森川すいめいさん（認定NPO法人世界の医療団理事/精神科医/鍼灸師/みどりの杜クリニック院長）ほか実践者3名の方

【日時】2016年1月16日（土）14:00～16:30

【場所】文京シビックホール会議室1・2（文京シビックセンター3F） 文京区春日 1-16-21

<http://www.city.bunkyo.lg.jp/shisetsu/civiccenter/civic.html>

03-5803-1100（公財）文京アカデミー施設管理係

【アクセス】 ・東京メトロ 丸の内線 後楽園駅（4a・5番出口） ・南北線（5番出口） 徒歩1分

・都営地下鉄 三田線・大江戸線 春日駅（文京シビックセンター連絡口） 徒歩1分

【参加費】1000円（学生・障害のある人 500円）☆どなたでも参加できます。事前申込不要です。

終了後、講師を囲んでの懇親会にも是非ご参加ください。（各自が飲食した分だけをお支払い頂く形式です）

【講師略歴】1973年、池袋生まれ。老年内科・精神科医として、外来診療、往診、オープンダイアログによる診療を行っている。2003年にホームレスを支援する団体「TENOHASI（てのはし）」を立ち上げ、現在は理事として東京・池袋で炊出しや医療相談なども行っている。6つの非営利組織の理事。訪問看護ステーションKAZOCマネージャー。世界44か国を旅した。著書：障がいをもつホームレス者の現実について書いた『漂流老人ホームレス社会』（朝日文庫、2015）

【講師から一言】こころが疲れ、孤立し、精神の疾患を患ったときに、私たちが頼る場所はどこでしょうか。仕事を失い、住まいを失ったときに待ち受ける一般的な支援スタイル（集団生活をいつまでも強いる形）にひとは耐えることができるでしょうか。孤独を感じ自尊心は傷つけられます。こころ疲れても、孤立することなくひとを助けていく方法がフィンランドにあります。住まいを失っても自尊心を傷つけられることのない援助方法がアメリカにあります。この二つの共通点は「自分の人生は自分のものである」そのことを援助者が奪わないこと、支えること。この二つのスタイルは、シンプルだけでも絶大な効果があることが証明され、今、世界中に広がりつつあります。そして日本でも始まっています。その内容と日本での実践方法をご紹介します。

【主催】ベグライテン ミシュカの森 【共催】上智大学 哲学科

【問合せ】090-9146-6667（関根） ANA71805@nifty.com（入江）



## ◆「暮らしの保健室」と「癌研有明病院緩和ケア病棟」◆

### 訪問してみませんか？

「暮らしの保健室」と「癌研有明病院緩和ケア病棟」の訪問を企画、参加者を募集中です。下記ご参照の上、お早めにお申し込みください。【問合せ先】関根 090-9146-6667 まで

【申込方法】タイトルに「暮らしの保健室訪問参加希望」又は「癌研有明病院訪問参加希望」と明記し、氏名、〒、住所、電話、携帯、メールアドレスを記入の上、次のあて先にお早めにお申し込みください。

(頂いた個人情報は、名簿化して訪問先に提出するほか、本訪問に必要な連絡に使用します。それ以外の目的に使用することはありません。)

E-mail : 渡瀬 美登里 cecilia.mwatase@gmail.com Fax : 関根 和彦 045-481-4912

### ◆「暮らしの保健室」訪問 に関して

暮らしの保健室は、秋山正子さんが2011年11月に設立された地域の保健室です。新宿区戸山周辺の高齢者、障害者、貧困者のための保健、介護、生活相談の拠点として、TVなどでも広く紹介されています。秋山さんが自らご説明、ご案内していただきますので、訪問に参加したい方は、下記によりお申し込みください。

【訪問日時】 2016年1月24日(日) 14:00~16:00【定員】20名(先着順)【参加費】500円(現地徴収)

【集合】暮らしの保健室に直接おいでください。 13:50集合

【暮らしの保健室概要】 〒162-0052 新宿区戸山2-33 戸山ハイツ33号棟125(1階 商店街)

電話 : 03-3205-3114 FAX : 03-3205-3115 E-MAIL : hokenshitu@kjc.biglobe.ne.jp

【アクセス】都営大江戸線・東京メトロ副都心線 東新宿駅から徒歩5分

JR 新大久保駅から徒歩10分 バス 新宿駅西口方面から 宿74系統 東京女子医大前行

大久保通下車 ホームページ : <http://www.cares-hakujuji.com/services/kurashi>

◎訪問に当たって、次のようにお願いしてあります。

#### 1. 下記についての説明及び質疑応答

- (1) 暮らしの保健室の設置及び運営の理念
- (2) 施設及び運営体制の概要
- (3) 来訪者に対する医学的、生活的、心理的なケアとスピリチュアル・ケア
- (4) 家族にたいするケア
- (5) スタッフのストレス・ケア
- (6) ボランティアについて 位置付け、体制、教育訓練、ストレス・ケアなど

#### 2. 許される範囲での施設見学

### ◆「癌研有明病院緩和ケア病棟」の訪問に関して

癌研有明病院の唐渡敦也先生及び関係者みなさんのご好意により、下記のとおり訪問させていただくことができるようになりました。

【日時】2016年2月27日(土) 14:00~16:30【定員】20名(先着順)【参加費】500円(現地徴収)

【集合場所】癌研有明病院1階ロビー総合案内付近 13:45

〒135-8550 江東区有明3-10-6 <http://www.jfcr.or.jp/access/index.html> TEL:03-3520-0111(大代表)

【アクセス】りんかい線 国際展示場駅 徒歩4分 ゆりかもめ 有明駅徒歩2分

◎訪問に当たって、次のようにお願いしてあります。

#### 1. 下記についての説明及び質疑応答

- (1) 緩和ケア病棟の設置及び運営の理念
- (2) 施設及び運営体制の概要
- (3) 患者に対する医学的、生活的、心理的なケアとスピリチュアル・ケア
- (4) 家族・特に遺族に対するケア
- (5) スタッフのストレス・ケア
- (6) ボランティアについて、位置付け、体制、教育訓練、ストレス・ケアなど

#### 2. 許される範囲での施設見学 ◎唐戸先生が、説明、案内して下さいます。

## ◇満員御礼「ミシュカの森 2015」のご報告◇

平野啓一郎さんをお迎えして本当の自分はひとつじゃない～（分人主義のススメ）

【日時】2015年12月5日(14:00～16:30)【場所】上智大学12号館 1F 102教室

【参加費及び定員】講演会1,000円(税込)定員:180名 懇親会4,000円(税込)定員:50名

【講師プロフィール】平野啓一郎(小説家)

1975年愛知県生。北九州出身。京都大学法学部卒。1999年在学中に文芸誌「新潮」に投稿した『日蝕』により第120回芥川賞を受賞。以後、数々の作品を発表し、各国で翻訳紹介されている。著書は『葬送』、『滴り落ちる時計たちの波紋』、『決壊』、『ドーン』、『かたちだけの愛』、『空白を満たしなさい』、『透明な迷宮』、新書『私とは何か「個人」から「分人」へ』、エッセイ&対談集『「生命力」の行方～変わりゆく世界と分人主義』。毎日新聞朝刊に連載された長編小説『マチネの終わりに』を来春刊行予定。

【主催】ミシュカの森実行委員会 ベグライテン 【共催】上智大学哲学科

【問い合わせ】E-mail: [begleiten.michka@gmail.com](mailto:begleiten.michka@gmail.com) (ミシュカの森実行委員会)

2000年末の世田谷一家事件で、実妹の宮澤泰子と幼い子どもたち二人を含む一家四人を喪ってからから15年。事件解決への遺族の祈念から生まれた追悼の会が「ミシュカの森」です。作家の柳田邦男先生や医師の日野原重明先生方のお声かけもあり、会を重ね、今年で10回目となりました。参加された多くの方々から悲しみに思いを寄せ、その水脈の広がり気づくことで、生きることを問うきっかけとなったというお声を頂くようになり、主宰としてありがたく感じております。

今年は作家の平野啓一郎さんをお迎えし「本当の自分はひとつじゃない（分人主義のススメ）」というタイトルで開催致しました。

「分人主義」とは「個人主義」に対する平野さんの造語です。本当の自分は一つと考える「個人主義」に対して、相手や環境によって異なる自分があると認識する「分人主義」が、自己否定感からの脱却への足がかりになるのでは？と、問いかけています。被害者遺族の立場から、どう悲しみと向き合うかを若い方に語りかける仕事の中で、平野啓一郎さんの「分人主義」と私の話の類似をあげる指摘が相次ぎ、「分人主義」に関心を持ったのが2年前のこと。以来、平野さんをお招きしたいと思い、今年実現しました。

愛する人を喪ったかなしみ・・・それはその人といた時の「分人」を生きられなくなるかなしみ。もうその人に喜びや悲しみを伝えていた自分はいない・・・私にとっての平野さんの「分人主義」が心に響いたのはこの一点だったのかもしれませんが。土に眠る球根、海に眠る真珠、羽に抱かれる卵、空に舞う雪・・・春夏秋冬につけ、感じる亡き人の姿。亡くなった人との新たな「分人」関係をどう紡いでいくのか・・・考えています。「ミシュカの森2015」にご参加くださいました方の中から、東大で文学と仏教学を学ばれた若き僧侶の方から、と、亡妹のお連れ合い、みきおさんと大学の同窓だった方からのご感想を紹介させて頂きます。

★入江杏さん主催の「ミシュカの森2015」に足を運ぶ。作家の平野啓一郎先生がゲスト。他者との関わりにおいて、一人の中にいろいろな人格が存在することを、「分人」という概念でとらえ（「個人」に対して）というお話。縁起・無我に慣れ親しんだ仏教徒の私にとって、とても親しみやすい概念だが、そこから繰り広げられるお話が、驚くほど新鮮な切り口で、最後まで目から鱗の連続だった。

特に、親しい人を失った時の喪失感を「その人といった時の「分人」を生きられなくなる悲しみ」と捉える発想に感銘を受けた。この発想に立って自分を見つめれば、自分にとっても、そして亡き人を悼む意味でも、悲しみを乗り越える契機になりうるのでは、と思った。平野啓一郎さんは大学在学時代、私が小学6年の時に『日蝕』で華々しく芥川賞を受賞。文学少年だった僕は衝撃を受け、爾来ひそかに憧れ、尊敬してきた御方。このようなご縁でお話が聞け、しかもそのお話が素晴らしく、感激。他にも、会いたかった人々（つい一週間前お会いした人も、実に1年ぶりに再会できた人も）と会え、仏縁に感謝。（岡田 文弘さんより）

★昨日上智大で行われた、入江杏さん主催の『ミシュカの森』に参加した。犯人が捕まらない限り、毎年、12月になると、世田谷一家殺人事件が様々なメディアで報道され、その中で、宮澤さん一家は繰り返し死ななければならない・・・早くこれを断ち切って欲しいという強い思いがある。

ゲストの平野啓一郎さんの講演で、『分人主義』の話を伺い、得心したことがあった。人の命のほうが高いはずなのに、法事ぐらいの時にしか会わない遠くの親戚の死より、飼っていたペットの死の方がなぜ悲しいのか。それは、単なるペットの死というだけでなく、同時にペットと長い時間を密接に共有した自分の死をも意味するという話である。また、「分人主義」という考え方は、自分の中の多様な人間性を認めることにより、一元的な自己否定からの脱却に繋がるという話にも共感できた。自身の生い立ちから現在に至るまでの経験やその中で養ってきた考えを素直に表現されていた平野さんには大変好感を持った。

そのあとの、入江さんの熱のこもった話と、平野さんのあくまで冷静な話しぶりのトークショーも興味深く聞き、あっという間の2時間余りだった。外に出ると、薄闇のキャンパス内には、クリスマスを祝う、華美でないイルミネーションが、暖かい光を浮かび上がらせていた。（冨部 久さんより）



## ★2015年11～12月の講演会・勉強会の報告と感想★

### ◇ベグライテン11月例会◇戦争と貧困を考える

【日時】11月17日(火)18:30～20:30      【場所】聖イグナチオ教会 ヨセフホール

【講師】稲葉 剛さんと信木 美穂さん      【参加費】 自由献金制

【主催】麴町教会メルキゼデクの会・ベグライテン・ミシュカの森・きらきら星ネット

【共催】上智大学哲学科

当日の例会を伝える「クリスチャン・トゥデイ」紙による詳細な記事を転載させていただきます。

### NPOもやいの稲葉剛氏が聖イグナチオ教会で講演

麴町教会メルキゼデクの会などが主催する集会「戦争と貧困を考える」が17日、聖イグナチオ教会ヨセフホール（東京都千代田区）で開かれた。7月に安全保障関連法が国会で可決され、日本が「戦争をしない国」から「戦争のできる国」へと踏み出しつつある一方で、東日本大震災と福島原発事故により、全国で避難生活を送る20万人以上の人々がいる。こういった現実を踏まえ、これまで戦争がもたらしてきた貧困の歴史に目を向け、戦争と貧困との深い関わりについて共に考えた。

NPO法人自立生活サポートセンター・もやいの理事などを務める講演者の稲葉剛氏は、広島で被爆2世として生まれた。大学時代に起きた湾岸戦争では、学生ら130人で平和運動を組織している。「自分の根っこには

常に、父母が原爆を経験したことがあり、理不尽に人が殺されていくことへの怒りがあった」と話す。その後1990年代にバブルが崩壊し、新宿などターミナル駅に路上生活者が急増するようになった。その中で、路上で病死や、凍死する人を目の当たりにし、路上で人が亡くなるような社会は何とかしなければと感じ、貧困問題に取り組むようになった。

今年春から立教大学大学院に特任准教授として就任した稲葉氏は、7月に同大で結成された「安全保障関連法案に反対する立教人の会」の呼び掛け人となって活動してきた。講演では、同会が出した戦争反対への声明を伝えた。声明は、戦争は抽象的なものではなく、具体的な名前を持った若者たちが戦場で向かい合い、殺し殺されることを意味すると述べ、子どもたちを含む多くの戦争犠牲者を生み出し、命の尊厳を踏みにじるものであることを訴えた。

戦争に反対することと、路上生活者支援は同じルール上にあると語る稲葉氏は、路上生活者の実情について話した。阪神淡路大震災やオウム真理教のサリン事件などが起きた1995年に、路上生活者が増加している。当時、路上生活者は45～70歳までの年齢幅があり、平均は55歳だった。70代の路上生活者には、元特攻兵や元少年兵がおり、路上生活と太平洋戦争が関わっていることを指摘した。さらに「戦争によるPTSD（心的外傷後ストレス障害）があって、うまく仕事に就けず、路上生活に陥っていったことが考えられる」と述べた。また、戦災孤児や原爆孤児だった人が路上生活者になっている場合も多いという。孤児となり、日雇いで建築現場や炭鉱などを渡り歩き、バブル崩壊後に仕事を失い、そのまま路上生活者となってしまう。ある人は、30代の時に戸籍が抹消されていることを知り、制度への不信が強く、生活保護につながらないという。稲葉氏は、ストリートチルドレンだった人たちは、「日本政府から『ネグレクト』されてきたのではないか、その根っこには戦争がある」と語った。

さらに、60年代、「金の卵」ともてはやされた時代に集団就職で東京に来た人々の中にも、路上生活に陥った人がいる。そこには地方での貧困ということもあるが、親からの虐待の問題もあったのではないかと指摘する。死刑囚・永山則夫の父親が酒、博打に明け暮れた末、家族を捨てて家を出て行ったことを例に出しながら、この父親もまた戦争帰りであったことを伝えた。

また、路上生活者には自衛隊経験者が多いことにも言及した。運転免許が無料で取得できるとか、公務員だから安定しているなどと言われ、自衛隊に志願するといった経済的徴兵制が以前から存在しているという。こういった人たちは、地方の貧困家庭出身者に多くみられ、入隊後に演習などで難聴になったり、隊内の人間関係のトラブルにより精神疾患を患ったりなどして退職後再就職できず、そのまま路上で暮らさざるを得ないのだという。さらに、米国の軍隊が、「大学、お金、旅、愛国心」を売りにして貧困層をターゲットに若者を集めていることを話し、「現在の若者の貧困の広がりや、経済的徴兵制を強化するものだ」と危惧した。

稲葉氏は、「戦争と貧困は連鎖していて、私たちはその瀬戸際にいる」という。軍事を優先する国家は、社会保障を切り捨て、さらに貧困を悪化させ、効率で人を判断する価値観がさらに拡大し、貧困は「次の戦争」のための人員を補給する温床となると発言した。その上で、憲法9条と25条はつながっていて、社会保障、雇用、戦争法制への反対など、さまざまな運動が横に広がっていく必要があると力を込めた。

稲葉氏の講演に続いて、震災と原発事故の避難者を支援する草の根のボランティア団体「きらきら星ネット」の信木美穂さんが、原発事故避難者の現状について話した。全国ではいまだ20万人を超える避難者があり、中には生活困窮に苦しむ世帯があるにもかかわらず、震災の風化が進んでいることに強い危機感を覚えていることを明かした。

今、特に問題になっているのは、現在は無償となっている避難住宅が、2017年3月には打ち切られることだ。信木さんたちは、「心から安心して帰ることができるようになるまで支援を続けたい」と、無償期間の延長

を求める署名を呼び掛けた。また、「国内の避難者と海外の難民は、災害から逃れる点では似ており、戦争も災害も避難の道のりは厳しい」と、避難者の受けるいわれのない誹謗（ひぼう）中傷を例にして語った。

また安保法案が成立したことで、被災や避難、被ばくといった経験をした子どもたちが、今度は戦争への不安を感じていると話し、これ以上大変な思いをさせたくないと訴えた。そして、困難な人たちに手を差し伸べる、そういう社会を作っていく必要があると訴えた。

この日の集会では、パリで13日に起きた同時多発テロに触れ、司会を務めた世田谷事件遺族・ミュシユカの森を主宰する入江杏さんが、インドの女性ジャーナリストが書いた詩を冒頭で読み上げた。また、稲葉氏も自身の講演の中で、フランス人研究者のマリーセシルさん（Marie-cecile Mulin）のメッセージを紹介した。参加した70代の女性は、「分かりやすく話してもらってよかった。今の時代が過去の戦争とつながっていることをあらためて知ることができた」と感想を述べた。（CHRISTIAN TODAY 2015年11月18日配信の記事より）



## ベグライテン安保グループ「憲法カフェ」のご報告

ベグライテン安保グループは、7月以後安全保障関連法案廃案、安倍自公政権退陣を合言葉に、抗議行動や集会、講演会等に参加してきましたが、9月の強行（無効）採決後、より積極的な形で運動を行うため、憲法カフェの形で会合を持つことにいたしました。

安全保障関連法廃止、安倍自公政権退陣と言っても、これはこれまで以上に運動の輪を広げ、深めなければ、実現できません。大きく減ったとはいえ、まだ安倍自公政権の支持率は4割台、自民党支持率は3割を超えているのです。野党間で選挙協力や選挙後の政権の在り方を巡って協議が始まっていますが、私たち国民が主権者としての自覚を深め、積極的に行動しなくては、実現するとは思えません。

安全保障関連法反対の声を5割台から7割台に増やし、安倍自公政権の支持率を4割台から2割台に減らすためには、自民党や公明党支持の人たちや、いわゆる無関心層と言われる人たちにも話しかけ、働きかけて行くしかありません。そのためには、私たち自身が学び方を変え、話し方を変え、行動の仕方や態度を変えて行くしかありません。

ベグライテン憲法カフェ第1回は、下記の要領で、上智大学で学生たちに哲学を教える傍ら、毎月神保町で「フィロカフェ」（哲学カフェ）を主催なさっている寺田俊郎先生をお招きし、思想信条が自由な市民同士、対等な立場で話し合う方法・態度を含め、学ばせていただく形で開催しました。

【日時】11月13日（金）19：00～21：00【場所】ルノアール四谷店 4F会議室【参加者】16名

【講師・ファシリテーター】寺田俊郎先生（上智大学文学部哲学科教授）

【概要】冒頭寺田先生が行っている哲学カフェの方法を説明し、話しやすい雰囲気を作ってくださったので、いつもはあまり発言なさらない方たちを中心に、活発に意見交換できました。半面人数が少し多いので、議論が深まらない、まとまらないという感想もありました。

ベグライテン憲法カフェ第2回は、下記の要領で、東京法律事務所9条の会の岸松江 弁護士にお願いしました。思想信条が自由な市民同士、対等な立場で話し合う方法・態度を含め、学ばせていただくことを目的とします。なお、第2回も、ベグライテン連絡会員限定の企画とさせて頂きました。誘っていただくのは、親しいご友人の範囲に留めていただき、チラシ、HP、FB、TWなどによる外部への宣伝は行いませんでした。

【日時】12月18日（金）19：00～21：00【場所】ルノアール四谷店 3F A会議室

【講師・ファシリテーター】岸 松江 弁護士（東京法律事務所）【参加者】9名

【概要】岸弁護士が、予め用意したレジュメに沿って安保法制の問題点を解説して下さり、活発に意見



講演 : 島菌進(上智大学神学部教員) 中野晃一(上智大学国際教養学部教員)

ゲスト : 香山リカ(立教大学現代心理学部教員)

リレートーク : SEALDs ほか ワークショップ

【主催】 上智大学グローバルコンサーン研究所 【共催】 立憲デモクラシーと平和を考える上智有志の会

【問合せ】 [sophiapeaceadvocates@gmail.com](mailto:sophiapeaceadvocates@gmail.com)

【WEB サイト : IGC ウェブサイト】 <http://www.erp.sophia.ac.jp/Institutes/igc/>

【有志の会 WEB サイト】 <http://sites.google.com/site/concernedsophians/>

## 日弁連主催 国際人権に関する研究会「LGBT の人権」

日本弁護士連合会では、国際人権諸活動に関する基礎的な調査・研究及び情報交換を行うことを目的に、定期的に「国際人権に関する研究会」を開催しています。今回の研究会では、「LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）の人権」をテーマに取り上げます。2015年3月末に渋谷区で同性パートナーシップ条例が成立し、同年6月にはアメリカ連邦最高裁判所が同性婚を認める判断をするなど、LGBTの人々の権利が話題となっています。そこで、今回の研究会では、谷口洋幸准教授（高岡法科大学）及び柳沢正和氏（NGOヒューマンライツウォッチ東京委員会委員）をお招きし、谷口准教授からは国際人権法からみたLGBTの人々の権利や、諸外国での現状についてご講演を、また、柳沢氏からは、LGBTの基本的な概念、当事者の抱えがちな問題についてご講演をいただきます。なお、本研究会は、弁護士のみを対象とした研究会ではなく、研究者、市民、司法修習生や法科大学院・法学部の学生の方など、どなたでも参加できます。ご関心をお持ちの方がおられましたら、お誘い合わせの上、ご参加ください。

【日時】 2016年1月14日（木）18時～20時 【参加費】 無料 どなたでもご参加いただけます。

【場所】 弁護士会館17階 1701AB会議室

（千代田区霞が関1-1-3 地下鉄丸ノ内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関駅」B1-b 出口直結）

【講師】 谷口洋幸氏（高岡法科大学准教授） 柳沢正和氏（NGOヒューマンライツウォッチ東京委員会委員）

【申込方法】 ①WEB 申込みフォームへの入力又は②チラシ兼申込書に記入の上、

FAX（03-3580-9840）でお申込みください。

【主催】 日本弁護士連合会 【問い合わせ】 日本弁護士連合会企画部国際課 03-3580-9741

## 院内集会～いじめ防止対策推進法見直し時期に向けて、ぜひ知っておきたいこと～

子どもたちに起きた学校に関わる重大事件・事故・自殺に対して、学校における調査システムは確立されておられません。そして、それは事件・事故・いじめを現場で見ていた子どもたちに及ぼす、心理的影響も計り知れません。不幸にも犠牲となってしまった子どもたちの人権、そして、その親の権利回復、再発防止の為の議論を深めていきたいと思えます。

【日時】 2016年1月19日（火）10:30～12:00 【場所】 参議院議員会館1階「講堂」千代田区永田町2丁目1-1

【報告者】 精神科医 香山リカ氏 「隠ぺいに巻き込まれた子どもたちの精神的影響」

教育評論家 尾木直樹氏 「重大事案発生後の初動調査の必要性」

その他、被害者遺族からの報告もありますので、ぜひ耳を傾けてください。私たちはこれを国への働きかけにつなげ、子どもたちのこころと命を守りたいと考えます。

【呼びかけ人】 超党派の衆参議員有志

【取りまとめ】 NPO 法人ジェントルハートプロジェクト

# 戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

2016年2月までの行動予定と場所を掲載します。委細、HP<http://anti-security-related-bill.jp/> 参照を。

1月19日(火) 2000万人統一署名・全国一斉行動(街頭宣伝) 場所：全国各地

※国会周辺では、19日行動と重なるので、夜18:30～は、そちらを優先します。

18:30～ 私たちはあきらめない！戦争法を廃止へ！安倍内閣は退陣を1・19総がかり行動  
場所：議員会館前を中心に行動

1月23日(土) 14:00～ 市民連合シンポジウム 場所：北トピア

2月16日(火) 2000万人統一署名・全国一斉行動(街頭宣伝) 場所：全国各地

2月19日(金) 18:30～私たちはあきらめない！戦争法を廃止へ！安倍内閣は退陣を2・19総がかり行動  
場所：議員会館前を中心に行動

2月21日(日) 14:00～15:30 止めよう！辺野古埋立て2・21首都圏アクション国会大包围  
場所：国会周辺

【主催】戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

(略称；「総がかり行動実行委員会」) <http://anti-security-related-bill.jp/>

## スウェーデン研究講座

スウェーデンが男女平等先進国であることはよく知られています。男も女も仕事も子育ても両立が当たり前の国です。それを可能にするのは480労働日の長期の育児休暇です。長期の育児休暇が女性だけに担わされていたら女性のキャリアにはマイナスですが男性の育児休暇取得率も90%以上(日本2,3%)です。その後、子どもは1～1歳半くらいになると、就学前学校へ入学します。内外ともに豊かな環境の就学前学校での基本は民主主義です。保育者は一人一人の子どもを尊重し、「子どもの声を聴く」ことから保育は始まります。スウェーデンでは1歳からのすべての子どもに保育は権利として保障されています。待機児童問題で劣悪な環境の保育施設で育つ日本の子どもがより質の高い保育が保障されるようにスウェーデンの保育を紹介していきたいと思います。

【日時】1月20日(水) 講演：午後6時～8時(5時半開場)

【場所】スウェーデン大使館1階ノーベルオーディトリウム(港区六本木1-10-3) 駐車場はありません。

【講師】水野 恵子 氏 元日本女子体育大学教授

【テーマ】スウェーデンの保育は世界の保育モデル～制度・歴史・保育実践について

【会費】スウェーデン社会研究所会員、スウェーデン語講座、文化講座受講者は無料、その他1000円、  
学生500円(当日受付にて)

【お申込み】 [jiss12@nifty.com](mailto:jiss12@nifty.com) 電話：03-5661-6035 fax 03-3655-1596

【主催】(般社)スウェーデン社会研究所 HP： <http://www.sweden-jiss.com>

## 東京保険医協会主催の講演会

東京保険医協会は、1963年10月に保険医の生活と権利を守り、国民の健康と医療の向上をはかることを目的に設立された保険医の自主的な任意団体です。会員数は約5,350人です(2015年3月現在)。目的達成のため、国民と共同した運動により医療制度の改善を追及するとともに、会員サービスのための諸事業を行っています。毎年300人以上の保険医が入会しており、都内に20支部を設けて支部ごとの多彩な活動を行

展開しています。医師の方は勿論、一般市民が参加出来る講習会もありますので、よろしければぜひ、HP  
をご覧ください。 <http://www.hokeni.org/top/sgroup/2016sgroup/1601sgroup.html#seisaku>

ベグライテン世話人をしてくださっている医師の樋口恵理さんからのご紹介は1月の講演会です。

【日時】 2016年1月17日(日) 17時～19時

【テーマ】 今、沖縄で起こっていること～沖縄の発展と米軍基地問題、辺野古新基地の現状にもふれて

【講師】 島 洋子 (琉球新報社、東京支社 報道部長)

【場所】 東京保険医協会セミナールーム (JR 新宿駅南口より徒歩 10 分)

新宿区西新宿 3 丁目 2～7 KDX 新宿ビル 4 階 (1 階は「やまや」輸入食品)

【申込】 定員 80 人 申し込みが必要です

樋口恵理 (井手医院) あて (erorange8050@ezweb.ne.jp) に申し込んで下さい。

【主催】 東京保険医協会 TEL: 03-5339-3601 FAX: 03-5339-3449

新宿区西新宿 3 丁目 2 番地 7 号 KDX 新宿ビル 4 階

## シンポジウム「精神保健福祉法改正に向けて～『権利擁護者』について考える」

精神保健福祉法は2013年に改正されましたが、精神障害者の権利擁護者については議論がなされながら明確に法律上位置づけることが見送られ、他方で3年後に見直すと言われました。そこで、次の改正には権利擁護者を明記することを目指し、そのためのあるべき権利擁護者について具体的に検討するため本シンポジウムを企画しました。どなたでも参加できます、是非ご参加ください。

【日時】 2016年1月23日(土) 13時00分～17時00分 (開場予定: 12時30分)

【場所】 弁護士会館2階講堂「クレオ」A 【参加費】 無料 事前申込不要です。

(千代田区霞が関1-1-3 地下鉄丸ノ内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関駅」B1-b 出口直結)

【主催】 日本弁護士連合会 問い合わせ先 日本弁護士連合会人権部人権第二課

TEL 03-3580-9956 FAX 03-3580-2896

## 日本弁護士連合会主催 平和と憲法って何だろう?～私たちの憲法を考える～

戦後70年が経過し、今、憲法問題が私たち一人ひとりの身近に迫っています。そもそも憲法とは何か? なぜ今ニュースで憲法が話題になっているのか? 私たち市民にとって、実は、憲法はとても身近な存在です。憲法の保障する人権と平和について、改めて一緒に考えませんか?

【日時】 2016年1月28日(木) 18時00分～20時30分

【場所】 小金井 宮地楽器ホール 3階大ホール (東京都小金井市本町6丁目14-45)

JR武蔵小金井駅南口徒歩1分 【参加費】 無料 事前申込不要 (直接会場にお越しください。)

※ どなたでもご参加いただけます (事前申込不要・先着550名)

【プログラム】 はじめに、弁護士会多摩支部専門法律相談のご紹介をいたします。

・朗読劇 「無言館」～戦没画学生の絵を通じ、平和の意味を考える～

・ビデオレター 「主権者になる！」 (上野千鶴子氏)

・講演会 「平和と憲法って何だろう?」伊藤 真弁護士・伊藤塾塾長)

【主催】 東京弁護士会、第一東京弁護士会、第二東京弁護士会、東京三弁護士会多摩支部

【問い合わせ】 東京三弁護士会多摩支部事務局 042-548-3800

## 「立憲デモクラシー講座」のご案内

安保法制反対運動の高まりに触発され、立憲デモクラシーに対する関心が高まったことを受け、この運動に参加した、あるいはこの運動に関心をもった市民の方々に向けて、立憲主義の理念、憲法に基づく政治とは何か、今後立憲デモクラシーをいかにして回復していくかといった諸課題をめぐって、連続講義が2016年に入っても続きます。奮ってご参加いただければ幸いです。無料で予約も不要です。会場など、委細はホームページでご確認ください。変更になっている可能性もあります。

<http://constitutionaldemocracyjapan.tumblr.com/>

2016年 1/29(金) 早稲田大学早稲田キャンパス 3号館 701教室 401教室

杉田 敦 (法政大学教授、政治学) 「憲法9条の削除・改定は必要か」

3/4(金) 早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 201教室

三浦まり (上智大学教授、政治学) 「私たちの声を議会へ：代表制民主主義の再生」

### 生と死を考える会「ケアの本質をさぐる～難病・障害の生と死を見つめて～」

人が生きることは自他が互いにケアしケアされることを通して、相互が人間的に成長することにほかなりません。しかし、私たちが生きる現代社会にあっては、そのケアが著しく困難な場面が少なくありません。今回は特に、難病や障害を生き、またそれに関わる人々の実際のケアの体験を通して、ケアの本質とは何か、生と死の意味はどこにあるかを考えてみたいと思います。

【日時】 2016年1月30日(土) 13:00～17:00 (受付12:30～)

【会場】 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館 2階 217号室

◆13:00-13:50 第1提題 「筋ジストロフィー病棟の患者と看護師たち」

菊池 麻由美氏 慈恵医大医学部看護学科准教授 (基礎看護学、看護師)

◆14:00-14:50 第2提題 「難病を受け入れて生きる意義とは」

釘宮 明美氏 白百合女子大学文学部教授 (比較思想・哲学、神経難病患者会理事)

◆15:00-15:50 第3提題 「発達障害児の家族・治療者として生きて」

岩崎 清隆氏 前群馬大学医学部保健学科准教授(作業療法士、発達障害児・者支援NPO)

◆16:00-17:00 全体討論・質疑応答

【参加費】 会員・学生/2,000円 一般/2,500円 (当日受付にてお支払いください)

【対象】 関心のある方、どなたでも 定員 先着50名様

【申込方法】 「NPO法人・生と死を考える会」宛に、氏名、住所、連絡先を郵便・FAX・

メール・電話(火・金午後1時～5時)にてお申込みください。HP→ [www.seitosi.org/](http://www.seitosi.org/)

【主催】 NPO法人・生と死を考える会 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館 2階 214室

TEL: 03-5577-3935 FAX: 03-5577-3934 Mail: [koenkai@seitosi.org](mailto:koenkai@seitosi.org)

### シンポジウム「救急医療のエンドオブライフ・ケア」～法と倫理と臨床現場～

救急医療の現場では、懸命に救命努力を尽くしたあとの延命医療の問題が深刻化しています。治療の継続が本人と家族らに苦痛と負担を与えるだけとなった段階では、ガイドラインに沿って治療を終了することも選択肢です。しかし医療者のなかには法的問題を心配する声が絶えません。こうした問題を臨床倫理的に適切に意思決

定するには何が必要でしょうか。このシンポジウムでは症例をとおして具体的に検討します。ご一緒に考えてみませんか？

【日時】2016年2月7日(日)午後1時～5時(開場:12:30)

【会場】東京大学本郷キャンパス 伊藤謝恩ホール(赤門の近く) <http://www.u-tokyo.ac.jp/ext01/iirc/access.html>

【登壇者】有賀 徹(昭和大学病院長・救急医学講座教授) 樋口 範雄(東京大学大学院法学政治学研究科教授)

清水哲郎(東京大学大学院人文社会系研究科特任教授) 荒木 尚(日本医科大学救急医学講座講師)

森 朋有(黒松内町国民健康保険病院医師) 座長 会田薫子(東京大学大学院人文社会系研究科特任准教授)

【定員】480名 【参加費】 【申し込み】事前の参加登録が必要です。【問い合わせ】 [uc4dals@gmail.com](mailto:uc4dals@gmail.com)

【主催】東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター 上廣講座「臨床倫理プロジェクト」

## 2016年グリーフサポートせたがやのプログラム

グリーフサポートせたがや(世田谷区太子堂)では、大切な人を亡くした子どもや大人を対象としたグリーフサポートプログラムを開催しています。2016年のスケジュールが決まりましたのでお知らせします。

「いつ、だれを、どのように」亡くされたかに関係なくご参加いただけます。話したくなければ話す必要もありません。毎回、1時間半の集いです。子どもと大人のグリーフサポートプログラムは別々の部屋で行います。大人はお話し中心のプログラム、子どもは遊び中心のプログラムです。世田谷区外の方にもお越しいただけます。

【グリーフサポートプログラムのスケジュール】

★子どもプログラム: 3歳～12歳 第3土曜 11時～12時半

中高生(13歳～18歳) 第3土曜 15時～16時半

(2016 2/20、3/19、4/16、5/21、6/18、7/16、8/20、9/17、10/15、11/19、12/17)

★大人プログラム: 第1日曜 11時～12時半

(2016/ 2/7、3/6、4/3、5/1、6/5、7/3、8/7、9/4、10/2、11/6、12/4)

★パートナー死別ピアサポートプログラム: 第2日曜 11時～12時半

(2016/1/10、2/14、3/13、4/10、5/8、6/12、7/10、8/14、9/11、10/9、11/13、12/11)

\*大人プログラムおよびパートナー死別ピアサポートプログラムにはお子さま連れでご参加いただけます。

【定員】5名(事前申し込みが必要です) 【参加費】子ども無料、大人1回500円

【場所】サポコハウス(世田谷区太子堂5-24-20-201、三軒茶屋駅から徒歩15分)

地図 [http://sapoko.org/sapoko\\_map.pdf](http://sapoko.org/sapoko_map.pdf) 【グリーフサポートせたがやのウェブサイト】 [sapoko.org](http://sapoko.org)

【お申し込み・お問い合わせ】 電話 03-6453-4925、[griefsetagaya@yahoo.co.jp](mailto:griefsetagaya@yahoo.co.jp)

お申込みの際、下記情報をお知らせください。

○参加者のお名前・年齢・性別・アレルギーの有無(有の時は、何にアレルギーがあるか)

○連絡先電話番号・メールアドレス ○死別の内容(どなたをどういう原因で亡くされたか)

## エンドオブライフ・ケア協会 援助者養成基礎講座

それぞれの地域で、人生の最終段階を迎える人やその家族への援助ができる人材を育成することを目的として設立された一般社団法人「エンドオブライフ・ケア協会」。「援助者養成基礎講座」では、多職種連携での対応から1対1での対応まで、具体的な対人援助の方法を、事例やロールプレイを通じて学習します。

【開催日】2016年02月20日(土)・21日(日) 【時間】・時間：1日目 10:00-18:00, 2日目 10:00-18:00

【会場】上智大学(四ツ谷キャンパス) 【対象者】医療・介護従事者 【定員】100名

【受講費用】 30,000円(税抜) ※初年度年会費3,000円を含む。 既に会員の方は27,000円(税抜)

【対象者】治療・療養の場を問わず、また職種や専門性に関わらず、多様な専門職と連携しながら、患者・利用者およびその家族が直面する「人生の最終段階：エンドオブライフ」でのケアに貢献したいと考えている医療・介護従事者。「身体的痛み」に限らず、「何で私がこのような目にあうの?」という理不尽な苦しみ(スピリチュアルペイン)で苦しんでいる人が目の前にいる時に、言葉を失い、どうしてよいかわからないと感じている、人生の最終段階に関わる援助者。

【講座概要】人生の最終段階にある人やその家族と関わる事を苦手と感じる人は少なくありません。日に日に食事が少なくなり、やがて寝ついていく人と、どのように関わってよいかわからない援助者が、自信を持って支援にあたるようになることを目的として、この講座は企画されました。

人生の最終段階に共通する自然経過、自宅・介護施設で求められる症状緩和や、意思決定支援の基礎知識を学びます。さらに、援助的コミュニケーションについて、ロールプレイを交えて学んだ上で、エンドオブライフ・ケアの中でも特に難しいとされるスピリチュアルペインに対するケアについて、1対1での対応方法から多職種連携で行う支援方法まで学びます。

これらの結果、解決が困難な苦しみを抱えた人に接しても、“援助を言葉にする”ことで、医療・介護の仕事を問わず、一人ひとりが自信を持って人生の最終段階にある人と関われるようになることを目指します。

#### 【学習要素】

1. 課題背景(2025年問題に備えて)
2. 人生の最終段階に共通する自然経過
3. 苦しむ人への援助と5つの課題
4. 意思決定支援
5. 自宅・介護施設で求められる症状緩和
6. 多職種連携で「援助」を言葉にする(マクロ)
7. 1対1で対応する(ミクロ)

#### 【受講前提】

- ・医療・介護の現場経験1年以上
  - ・(医療・介護職として患者・利用者の)人生の最終段階に現在関わっている、過去に関わっていた、あるいは、これから関わろうとしている
  - ・学んだことを活かし、各事業所で伝えていく意思がある
- ※事例検討やロールプレイを行うため、上記を満たしていることを前提といたします。

## 日本カウンセリング学会主催 東関東支部公開研修会

【日時】2016年2月21日(日) 10:30~16:30

【会場】NPO法人カウンセリング教育・サポートセンター教室 千代田区神田神保町1-34 風間ビル3階

【参加者】日本カウンセリング学会東関東支部会員および一般の方 【参加費】無料

【プログラム】第1部 10:30~12:30 「悲しみを生きる力に」講師 入江 杏(ミシュカの森)

第2部 13:30~16:30

「カウンセリングとアドラー心理学~個から集団(地域)へ、褒めるから勇気づけへ~」

講師：浅井健史(立教大学・明治大学・目白大学兼任講師、東京都市大学等カウンセラー、臨床心理士)

【申込・問い合わせ先】氏名、携帯連絡先、会員か否かを明記の上、下記にお申し込みください。

mail:commu5n2@gmail.com fax:03-3491-7456 (担当：笈田育子さん)

## ホスピス国際ワークショップ

ピースハウスホスピス教育研究所では、ホスピス・緩和ケアの基本的な考え方、ケアの実際、施設の利用法などを知って頂くことを目的として開催される公開セミナー他、各種のセミナー・ワークショップ開催しています。場所は、ホスピス国際ワークショップは、1993年のピースハウス病院開院以来、様々な国から講師をお招きして開催しています。

【日時】2016年2月27日(土)・28日(日) (以下の講演は通訳付きです)

【場所】ピースハウスホスピス教育研究所(神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1 ピースハウス病院内)

★詳細はこちらから→ <http://www7.airnet.ne.jp/peace-h/openseminar.html>

【テーマと講師】緩和ケアの再考と新たな挑戦ー英国・香港・日本の交流ー

Professor the Baroness Finlay of Llandaff [英] Dr. Amy Yin Man Chow[香港]

Dr. Yoshiyuki Kizawa 木澤 義之 [日・Facilitator]

【プログラム】★27日 10:00～17:00

第一部：緩和ケアのルーツ・基本原則の再発見、再考～英国からの報告、香港・日本の現状と課題

第二部：喪失と悲嘆のケア～理論と実際

死別悲嘆のアセスメント 緩和ケアにおける悲嘆のケアの必要性とその実際  
ケアの3段階、ケアの有効性、介入の実際～

★28日 9:00～16:00

第一部：緩和ケアにおける倫理的挑戦～自殺援助の問題をどう考えるか～

第二部：緩和ケアへの国の取り組み～全ての人へ専門的緩和ケアを患者の声に耳を傾けて

第三部：ケアを提供する専門家の喪失と悲嘆～悲嘆のケアとエンパワーメント

※プログラムは状況により変更することがあります。詳細をご確認の上、お申し込み下さい。

【問い合わせ先】 ☎259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

ピースハウスホスピス教育研究所 TEL: 0465-81-8904 FAX: 0465-81-5521



## 安全保障関連法に反対する学者の会

学生らとともに安保法案に反対する抗議行動を続けていた「学者の会」、「この違憲立法の適用を許さず廃止へ追い込む運動へと歩みを進める」とする抗議声明を発表し、全国主要大学に会があります。学者ならずとも一般市民の方の署名サイトもあります。私も出身大学、息子や亡夫の出身大学のサイトに立ち寄り、お写真入りで出ている親戚の大学の先生を発見して、嬉しくもびっくりしました。皆様も恩師や旧交のある方との再会があるかもしれません、是非一度ご覧下さい。

同会のHPにある各大学の取り組み一覧はこちらです→<http://anti-security-related-bill.jp/>

## オルタナティブ・メディアを2つご紹介します

主流メディア（メインストリーム・メディア）や企業メディア（コーポレート・メディア）と呼ばれる大手資本による既存マスメディアに対して、独立メディア（インディペンデント・メディア）や「もう1つのメディア（オルタナティブ・メディア）」と呼ばれるメディアが少しずつですが、日本でも広がってきています。このところ、関わりがあったオルタナティブ・メディアをこの機会にご紹介致します。

インターネット放送「デモクラTV」と、インターネットによる新しいメディア「NPJ」です。

### ■デモクラTVとは？

デモクラTVは、いま起きている出来事やニュースの本質を、わかりやすく解説する「新しいニュース解説テレビ局」、インターネット放送です。アクセス先はこちら。<http://dmcr.tv/>

リベラルな「自由と民衆のプラットフォーム」をめざし、番組構成は、主として時事問題のニュース解説がメインですが、他にも討論やインタビュー番組が編成されています。

ちなみに私がゲストにお招き頂きました、2015年12月19日の放送内容は、今週の特集として「犯罪被害者遺族とグリーンケア」。他には（1）消費税「据え置き税率」自公の合意は（2）日印原子力協定締結で（3）COP21パリ協定締結（4）フランスで極右が浸透（5）夫婦別姓認めぬ規定は合憲、と最高裁（6）思いやり予算、減らすどころか負担増・・・と多岐に渡る話題が出ました。参加メンバーも多彩。池田香代子さん（ドイツ文学者）をはじめ、鈴木哲夫さん（政治ジャーナリスト）山岡淳一郎さん（ノンフィクション作家）栗原 康さん（政治学者）大久保太郎さん（放送作家）、司会は横尾和博さん（文芸評論家）でした。よろしければ、是非ご覧下さい。

### ■NPJ（一般社団法人 News for the People in Japan）とは？

NPJは弁護士を中心に、ジャーナリスト、フリーランス、大学教員、学生、主婦などが、世代と職業の枠を越えて結びついた「一般社団法人 News for the People in Japan」の略称です。

アクセス先はこちらから→<http://www.news-pj.net/about>

NPJのHPに「所属メンバーは、みな閉塞的な日本のメディアの状況に危惧感を抱いています。私たちは憲法と人権を守る市民の側からの情報発信とコミュニケーションを提案します。代表理事 梓澤和幸（弁護士）」と謳われているように、メディアの問題点を考え、自らも発信しています。動画サイトも充実していますので、是非アクセスしてみてください。

私はこのNPJのお力添えを得て、あるテレビ番組に対する苦しみの思いを12月14日付けで、BPO（放送倫理・番組向上機構）に申請致しました。BPOとは、放送における言論・表現の自由を確保しつつ、視聴者の基本的人権を擁護するため、放送への苦情や放送倫理の問題に対応する、NHKと民放連によって設置された第三者機関です。メディアの前に個人は余りにも無力で、申し立てをする怖さもありました。NPJ代表理事の梓澤和幸弁護士をはじめ皆さん方がとても真摯に向き合ってくれて下さって、申し立てをする社会的意義を一緒に考えて下さったことが大きな励みになりました。報道の自由と人権がともに保障される社会を目指して・・・という気持ちを一般市民の皆様にも、またこれからのメディアを創る業界の方々にも、共有して頂ければ嬉しいです。未解決事件の遺族として、ずっと興味本位の報道に消耗し続けた15年への虚しさを、前向きな希望に変えてくださった皆様から感謝しています。私の気持ちをまとめて、リリースした全文を掲載させていただきます。

## ★BPO 申し立てにあたって★

世田谷事件遺族 入江 杏

2000 年末の世田谷事件。私の妹、宮澤 泰子一家四人が殺害されました。姪のいなちゃん（享年八）と甥の礼くん（享年六）という幼い姉弟までもが犠牲になったこの悲劇は、隣地に住んでいた私たち家族の運命も一変させました。理不尽な殺人事件で、愛する家族を喪ったどん底で体験したメディアスクラム（過熱報道による被害）。事件から 15 年を経た今も忘れられません。同時に、自身の悲しみと向き合い、喪失悲嘆から再生に向かうことができたのは、メディアの力を借りてのこともあり感謝しています。

精一杯の捜査協力の中で、私自身は一貫して、動機も犯人にも心当たりがない、と申し上げているのに、この番組では、あたかも犯人に心当たりがあるかのように強調されています。妹たちには恨まれる節はないという私の思いを伝えているのに、亡くなった四人に申し訳ないと、涙がこぼれました。

これまで必死で積み上げてきたのは、妹たちが一生懸命に生きてきた生の軌跡を辿りながら、回復への道筋を探る自助です。さらに同じような苦しみを抱えている人たちへの眼差しを変えていく共助を経て、社会的支援に繋げていく公助へと活動のフィールドを広げていく中で、突然の喪失体験から再生に向かう自分の人格を、覚悟を持って作り上げていく努力を重ねて参りました。

しかし、この番組では、あたかも障害を抱えた人に対して、私が偏見を持って犯人と考えているかのような人格として描かれ、自分が思い描く自己像とは正反対の人格が、巨大なメディアにより流布されてしまいました。

妹たちの魂に恥じないように生きていきたいと思い、これまで積み重ねてきたものが、この番組によって破壊されたと感じました。編集権の濫用により流布されたイメージを個人の力で変えることには絶望的な徒労感を伴うものです。なんとか本来の自己像を取り戻すため、修正の放送を御願いしてきましたのですが、何ら誠意を持った対応を得られず、拒絶されてしまいました。とても辛く、悲しく、メディアに寄せていた信頼が裏切られた思いです。

事件解決への強い願いから、痛みを伴いながらも、どんな取材に精一杯丁寧にお答えてしてきたつもりですし、今後もメディアの方々にはお力添えを頂かなければと思っています。ですから、こうした事態に至ったことは残念です。

今年は事件から 15 年、また来年初頭には、事件後、家族を支え続けてくれた夫の 7 回忌を控えています。雑念に囚われず、先に逝った家族に思いを馳せることに専心したいと思っていました。ただ、一遺族として、また報道の自由と人権がともに保障される社会の実現を願う一市民として、看過することはできないと思い至りました。どうぞご理解くださるようお願い申し上げます。



★編集後記★1 月後半に二週に渡って、上智大学の「グリーンケア研究所」で授業させて頂く機会を得るに際し、「グリーン」とは何だろう？と自問しています。「かなしみ」とは「哀しみ」「悲しみ」であるとともに「愛しみ」である、と気づかされた折に、詠んだ句の中から、「冬」と「新年」の句をふたつ・・・  
星の香の亡き子のショールたたみおり      初空に死せる星また瞬きぬ      杏

(編集担当「ミシュカの森」入江 杏)

★★講演会や講座、イベントの情報をお持ちの方はお寄せ下さい。書籍や映画などの推薦、投稿も大歓迎です。会報に関する連絡先：入江まで ANA71805@nifty.com ★電話の場合：関根まで 090-9146-6667